

# 高崎高校同窓会報

2022  
No.56

発行所／高崎高校同窓会 〒370-0861 高崎市八千代町2-4-1 TEL.027-320-6024

令和4年11月30日

## 和太鼓部が全国の舞台へ “蒼天”の音 高らかに鳴り響く



第46回全国高等学校総合文化祭 とうきょう総文2022／練馬区立練馬文化センターにて

# 乗附6年・下つ端4年 -学制改革異聞-

1945年8月ポツダム宣言受諾、9月降伏文書調印と戦争処理が順調に進むと、10月にはGHQにより日本民主化のための五大改革指令が出され、急速に戦後改革が進んだ。この改革指令には教育の民主化も含まれており、その手始めに46年3月のアメリカ教育使節団報告に基づいた教育課程の大規模な改編が行われた。これにより教育課程はこれまでの「複線型教育」<sup>※1</sup>から「単線型教育」<sup>※2</sup>、具体的には「6・3・3・4制」の学校体系への変更、義務教育9年間への延長へと大改革が行われた。

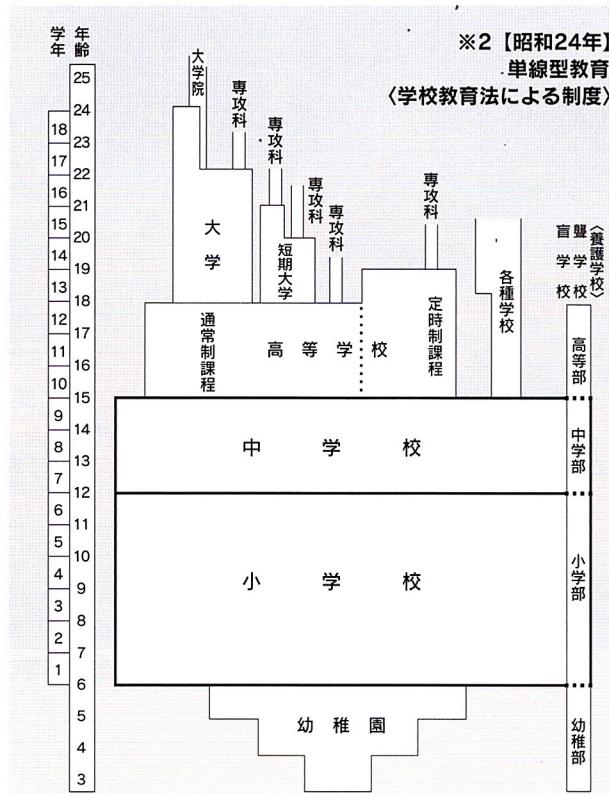
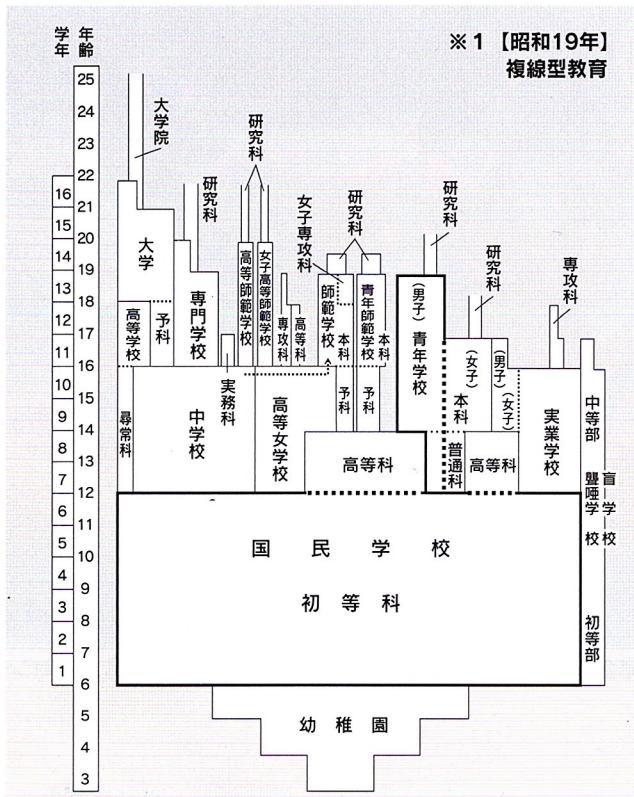
この大改革は明治以来定着してきた制度を一挙に刷新し、翌47年には「新制中学校」開設へ移行するという慌ただしさで、46年度国民学校6年生（47年3月修了）は旧制中等学校への受験準備に入った後の措置のため、受験希望者は無試験でこれまでと同じ顔ぶれが「新制中学校」に入学ということに拍子抜けしたり、戸惑つたりしたが、一方では多くの生徒にとっては高嶺の花だった中学校へ全員入学できるということで、将来への大きな希望を持てるようになった。この学年は新制中学校から新制高等学校の6年間を初めて就学した新制度第1期生となる。この学年は高崎高校では第52期生で、その親睦会を「新高会」と命名して新制度のトップランナーを誇った。

そんな学年もあれば、一方でなんとも割を食った学年もあった。それは第51期生で、この学年は46年3月国民学校を卒業し旧制度下の高崎中学校へ入学したが、翌47年には新制度に切り替わったため旧制中学校に併設された併設新制中学校の2年生となつた。ひとつ下の学年は新制中学校の1年生になって地元の小学校に隣接する校舎で学んでおり、廃止される旧制中学校は生徒の募集は行わなかったので乗附には新入生はなく、上には旧制の5

年生までおり、中学校最上級の3年生になっても乗附では続けて最下級生の悲哀を味わうことになった。当時最下級生は便所掃除が当たり前で、さらに49年にはそのまま新制高校1年生になったがこの年も最下級生はおらず、やっと50年になって完全新制の高校1年生の入学で最下級生から解き放され、渴望していた上級生になれた。なお、この学年の同期には46年度末国民学校高等科1年に在籍し、昨年6年生で進学できず捲土重来を期して旧制中学校入学を希望し準備していた生徒もいた。しかし47年度からは旧制中学校が1年の募集を行わなかつたため旧制への道を閉ざされ、さりとて国民学校高等科が廃止され高等科2年にも進級できなかつた。そのため国民学校での同期生が在籍している併設新制中学校2年に無試験で編入された。このようにこの学年は学制改革に翻弄され、乗附に6年その間最下級生4年、別れた同期生と再会するという特異な体験をしたのである。これが第51期生だ。

同窓会員名簿を開くと、同期生でありながら別の年に卒業している学年がある。43年入学した学年は47年度末（48年3月）旧制中学校5年を修了し47期生として卒業したが、希望者にはこの年から始まる新制高等学校3年への編入が認められ、翌49年新制高校第1回の卒業生となつた。48年卒業が第47期生、49年卒業が第48期生と分れた。また、49期生も同じく49年旧制5年卒業と50年新制高校3年卒業の別年卒業だが、卒業期は分けず、両年とも第49期生となっている。また、第50期生ははじめて新制高校に1年生から3年間を在籍した。

このように学制改革は学校にも生徒にも大きな混乱をもたらしたが、この混乱期に新生の意気に燃えた生徒が、新制高校の新たな伝統の礎を築き、現在の元気につながっているのだ。（田端 積）



# ご挨拶



高崎高等学校同窓会長(71期)  
**坂本 正樹**

同窓会の目的は会則によると「会員の交誼を厚くすること」「母校教育の振興充実に協力すること」とされています。コロナ禍にあって、後者はその対策関係費用等での援助や職場訪問事業等母校の期待に応えることが出来たとは思います。ただ、前者については会合があまり出来ず、特に本年1月の新年懇親会は直前に中止とせざるを得ませんでした。また、その関係で総会・懇親会の会計は約100万円の黒字となりました。この使途ですが、常任理事・理事会に諮り、黒字分は来年の新年総会・懇親会の会計に繰り越させていただくこととなりました。大変ご迷惑をおかけしていますが、詳細はホームページでご挨拶させていただきましたので、ご参照いただければ幸いです。

さて、今後の同窓会の最大の課題は若手の同窓会への参加をどう図るかであると考えています。今年もゴルフ大会は開催で

きましたが、かなり以前から一定の期以降からの参加が全くありません。また、会費納入率や役員の人数も一定の期以降からは極端に減っています。ただでさえ、高校の定員が削減され卒業生が減っているのに、このままでは、同窓会はかなり先細りとなってしまいます。もちろん本部としての取り組みは重要ですが、参加していない方に、単に同窓会には参加すべきであると言つても説得力はありません。同窓会により高校時代に抱いた青雲の志を思い出した、仕事とは関係のない人たちと届託のない話が出来たなど会員諸兄の思いを様々な機会に若手に伝えていただき、同窓会とは楽しいものだという風潮を醸成して行くことが基本と考えますので、よろしくお願いします。

私の会長の任期もあと約1年ですが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。



高崎高等学校校長(81期)  
**小林 智宏**

本校校長2年目を迎えました。会員の皆様には、様々な場面で本校の教育を支えていただきしておりますことに感謝申し上げます。

今年度は6月に第70回翠巒祭を3年ぶりの有観客で開催することができました。OBの皆様にもチケット制とさせていただき、申し訳ありませんでしたが、大勢の方に御来校いただき、成功裏に終えることができました。

7月には、5年目となる「先輩、教えてください!」を、コロナ禍の中にも関わらず、新規の御協力も頂き、より充実した形で行うことができました。生徒たちは、貴重な体験に加えて、先輩の仕事に対する姿勢や母校愛の熱量に心動かされて帰ってきました。

同月から、第1体育館が長寿命化のための改修工事に入っています。そのため、

第76回定期戦は、昨年度に続き前高を主会場に行われましたが、生徒たちは練習場所等のハンディをものともせず、7連勝を成し遂げました。来年度は、史上最多の8連勝をかけて戦います。御期待ください。

第1体育館の改修に当たっては、同窓会から新しい暗幕を寄贈していただくことになりました。同窓会の温かく力強い御支援に、心から御礼申し上げます。

コロナ禍の先の読めない状況が続いています。ウイズコロナに向けて、学校においても、感染症対策と諸活動の両立がますます大きな課題となっています。生徒の活動を止めることのないよう感染症対策を一層徹底し、高高らしい文武両道の充実と発展を図ってまいります。引き続き、御理解と御支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

# Win winのお付き合いで 世界から学びたい

JICA高崎分室長

高橋 政行



私は高高を1980年に卒業したので79期になる。中学時代に読んだ本で、終戦後間もない米国に留学してドラマチックな経験をした故ミッキー安川氏の「ふうらい坊留学記」に感銘を受け、将来は海外に出て日本ではできない経験を積むことに憧れを持っていた。

高高に入学後は、初心者で始めた剣道は早々に断念し、フォークソングバンドもすぐ断念、バイトをして購入したバイクはガス代が払えず断念、その後、北海道まで走る自転車旅を敢行、など、彷徨と言えるような日々だった。転機は2年の夏休み明け、勉強をしておらず成績が低迷していた私を本気で叱ってくれた友の言葉で、そこから将来を真剣に考え始めた。さらに翌年の春休みに自転車で会津、裏磐梯を一人旅して、五色沼から眺める磐梯山の美しさに感動し、「よし、沢山旅をする為に大学に行くぞ」と当面の目標を決めたのだった。遅ればせの追い上げが奏功し、なんとか東京外国语大学のスペイン語学科に進むことができた。

欧米の情報は国内でも豊富なので、別の文化を学びたい、けれど広い地域をカバーする言語がいい、という好奇心と横着さでスペイン語を選んだ。思いは南米へ、特に「コンドルは飛んで行く」の切ないイメージが広がるアンデス山脈へ向かっていた。インカ帝国を繁栄させたケチュア族の世界もある。

「1年休学して南米を旅する」を目標に大学時代の日々は、自転車旅行、体力づくりの為のバドミントン、資金作りの為のバイト（牛丼店など）などで充実していた。

そして大学4年目を休学して、ペルーアンデスのクスコ（インカ帝国の首都）に向かった。標高3800メートルほどの高山地帯だ。現代のインディヘナの生活・文化を知る為に村に住み込みたかった。人伝の紹介の連鎖で、ついにはクスコから1時間乗り合いバスに乗り、さらに1時間山を登つ

たところにある「キルワイ」村の若い村長のお宅に居候することができた。村の生活は単調な農作業が多く、見ているだけでは暇なので、子供たちと歩き回ることが多かつた。8歳になる村長の息子、アレハンドロ君とは随分行動を共にした。親の手伝いの一つで、畑に小川の水を流し込む作業があるが、高地の水はとても冷たい。それを裸足にサンダルの足で流れに入り、石ころの位置を調整する。私にはできなかった。小さなことに思えるかも知れないが、挫折感を味わった。「先進国の日本人」と偉そうに思っているが、途上国ペルーのさらに最底辺に位置づけられる先住民族の子供の心身は、やわな日本人よりずっと強く尊いと実感した。10か月間ほどの南米滞在で私の人生に強く影響したのはこの挫折感だったように思う。



灌漑水流の調整をするアレハンドロ

キルワイ村

帰国して、沢山撮影した写真を現像してキルワイ村にも送ったが、返信は来なかった。ペルーの郵便事情の中で紛失したと思っていた。

もう一度ペルーへという思いがあったが手段が見つからず、自立する為に就活をして日本航空の総合職に採用して頂いた。1985年、あの御巣鷹山の事故の直前であった。事

故当時は最初の職場である成田空港旅客サービス部に在籍していた。身近に多くの悲劇を聞きながらも、バブル経済が絶頂へ向かう時期もあり、飛行機はいつも満席で、複雑な気持ちで忙しく働いていた。入社後数年はいろいろ経験させるという人事の方針で、そのあと、国際線の客室乗務研修、大阪支店の国内線営業、ニューヨーク・ケネディ空港の旅客サービスなどを概ね2年間ずつ経験した。

ニューヨークから帰国後、新聞で国際協力事業団（JICA）の社会人採用の広告を目についた。JALの仕事は楽しかったが中南米とは縁が薄いことも分かったので、「JICAなら中南米の仕事ができる」と惹きつけられた。運試しに受験してみると採用の通知を頂けたが、当時、会社から住宅資金を借りたばかりで、子供は3歳と1歳の娘2人、転職は無謀かとも思われた。しかし住宅融資は銀行が引き受けてくれて、家内も了解してくれたので、転職することができた。

転職したのは1994年、社会人10年目だった。その頃は日本政府が政府開発援助（ODA）を外交の重要なツールとして増加させていた時期であり、JICAは多忙を極めていた。



南米パラグアイで洪水に悩む農業地帯の排水プロジェクトの調査

2年間農業開発の技術協力プロジェクトを担当する部署でJICA事業の基本を習得させてもらったあと、ドミニカ共和国、エルサルバドル、メキシコの海外事務所を含む様々な部署を経験させてもらい、ホンジュラス事務所長、国内事業部次長、筑波センター所長を経て57歳で管理職定年を迎えた。その後東京センターの所長特別補佐の立場で民間連携事業を担当しながら関東で初の試みとなる分室設置の準備を担当した。

分室の第一号を群馬県に置こう、という方針で交通の要衝でもある高崎を軸に場所を探したところ、高崎市長はじめ市役所の皆さんから大歓迎とのご意向を伺い、高崎市が所有するJETRO群馬に隣接する場所を貸して頂く話が急ピッチでまとまった。JICAは途上国支援を主旨とする組織なので、日本企業を正面から支援するJETROとは異なり、「途上国支援が結果的に地域の発展にもつながる可能性があるので、win winの国際協力を創造しましょう」という立場。このため、分室設置も小さなシェアオフィ

スからと想定していたが、高崎市の皆さんとの国際化への意識の高さに助けられ、JETROと軒を並べる場所で2021年10月にスタートを切らせて頂いた。JICAの国内の仕事というと違和感があるかも知れないが、国際協力も日本の地域に根差していないと意義が薄れるものであり重視されている。

私がJICAに転職した頃はバブル崩壊後とはいえまだ日本経済は強く、一人当たり国民所得もトップクラスで、国際協力額も米国を抜く勢いだった。その後2000年代に日本経済は長い低迷期に入り、国際協力の予算も減っていった。個人的な驚きは日本の人一人当たりGDP（ドルベース名目、IMF）が2000年に世界で2位だったものが2021年には28位になったこと。そのような統計的な話を脇に置いても、日本では少子高齢化が進む中で目の前に働き手、若者がいない、という深刻な状況がある。

しかし、そんな今だからこそ、日本人は世界の人たち（8割以上は途上国に住む）と対等な気持ちで仲良くなり、メリットを分かち合うwin winの展開を目指せるように思う。安上がりな労働者としてではなく、貴重な仲間として途上国の若者たちを日本に招けるのではないか。

日本の技術力は素晴らしいが、一人ひとりの能力や強さが必ず抜けている訳ではない。ペルーアンデスの山奥でアレハンドロ少年の強さに挫折感を味わった日本人として常にそう思ってきた。それだけに、日本の国際協力の議論が、「援助」から「連携」へ、win win関係への橋渡し役へと移行しようとしていることが好ましく思っている。

ところで、ある日フェースブックのメッセンジャーで「私はMasayuki Takahashiという人をずっと探しているが、あなたではないか？」というメッセージが入り、末尾に下の写真が添付されていた。あのアレハンドロ少年だ。2016年夏、1983年に別れてから33年の時を超えて繋がることができた。彼はクスコの街へ出てホテル業を営んでいたという。「日本人観光客を見るたびに、あなたを知らないか尋ねていた。あなたを兄弟だと思っている」と。

SNSの凄さ、文明は今も発展していると実感した瞬間だった。



アレハンドロ、ホスティーナ兄妹と

## 私の仕事

82期

鉄道開業150年!  
未来の姿に変身を始める年東日本旅客鉄道株式会社 代表取締役副社長  
鉄道事業本部長 安全統括管理者

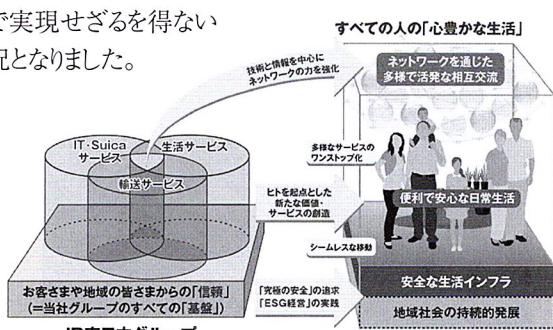
市川 東太郎

## 日本の鉄道に2度目の危機がやってきた

高高では野球に明け暮れた生活でしたが、元々鉄道が大好きで国鉄で働きたいなあと漠然と思っていました。大学3年生だった昭和62年に国鉄は分割民営化され、翌年JR東日本が採用を再開したので迷いなく応募しました。東太郎という名前が良かったのか就職できました。あれから35年、昨年度JR東日本は日本一の赤字を出しました。国鉄は昭和24年に発足して37年で倒産しましたが、再び鉄道に大きな危機が訪れたわけです。

## 危機は最適化へのサイン

今年は鉄道開業150年ですが、鉄道はこの間、日本の国を富み栄えさせるために大量の物と人を高速で移動させて、国力を上げる手段として大活躍してきました。国力が上がると、国は人々の日々の暮らしを豊かにするために、小回りも効くトラック・自動車・バスのための道路と、小ロットではありますが遠距離を高速移動できる飛行機の充実を図りました。それに伴い、鉄道の特性である大量高速輸送が活かせない路線では、移動手段の置き換えが進み廃線になる事態も出てきました。加えて、コロナ禍が生じて人々のライフスタイルが変わり移動需要が減少したため、鉄道全体のご利用も減少しており、当社も危機的な状態に陥っています。人口減少とライフスタイルの変化は見えていたので、10年間の変革計画を立てていましたが、それを目前で実現せざるを得ない状況となりました。



(JR東日本グループ経営ビジョン「変革2027」より)

## 3つのカテゴリーに分けて最適化を考える

鉄道と一口に言っても、新幹線、首都圏在来線、地方在来線では趣が大きく異なります。

## [新幹線]

新幹線は、都市間の大量高速旅客輸送の役割を在来線から引き継いで収益をあげていますが、構造物・システム・車両などの維持に多大なコストがかかります。最近では耐震補強を急いでいますが、会社全体の経営状況に鑑みると急速に進めることは困難です。また、開業40年を迎えた東北新幹線では今後大規模な修繕工事を行う必要があります。一方で、新幹線の自由席特急料金は国の認可制であり、飛行機やホテルのように需給に応じて大きな幅を持って料金を決めることが出来ない状況です。新幹線は今や、飛行機・高速バス・自動車との競争の渦中にないので、料金設定も柔軟に設定できるように働きかけをして、その実現で今までより多く得られる料金をインフラ維持に活用したいと思っています。

## [首都圏在来線]

首都圏在来線は、高い乗車率を誇り、低廉な運賃のまま、システムの高度化やサービス品質向上を実現しながら収益も上げています。今後、自動運転も実現して、輸送オペレーションをコンパクトにして、そこで生み出した経営資源を生活サービスやIT・Suicaサービスの分野にも振り向けて、ヒトの暮らしを豊かにすることに貢献していきます。

## [地方在来線]

地方在来線はエリアの旅客輸送を担うとともに、東北線や奥羽線・羽越線といった貨物列車を運行する線区は貨物輸送の使命も果たしていますが、いずれの線区も赤字です。

JR東日本グループでは中期経営計画「変革2027」で「鉄道起点からヒト起点へ」及び「暮らしを豊かにする」ことを掲げています。今までの地域との関わりは、鉄道輸送と観光でしたが、今は輸送サービスと伴走型地域づくりを一緒に行っていく企業

グループに変身しました。そのエリアの暮らしの楽しさを維持する姿を、お金の使い方も含めて地元の方々と一緒にになって考えて、実現していくことに貢献したいと思っています。

貨物輸送に関しても、線路等のインフラは旅客会社が主体で維持していますが、それは国鉄分割民営化時のルールであり、現在の地方在来線の状況を見ると貨物列車に対応する負担が相対的に増えており、運営負担に関するバランスを見直す時期にきています。トラックの運転手不足とカーボンニュートラルの観点から貨物輸送を鉄道へ転移するモーダルシフトの考えが出ており、それと合わせて最適な提案をしたいと思っています。

### 大量高速輸送の特性が活かせる環境においては、自動運転を前提とした鉄道システムを構築する

鉄道を持続的に運営するための重要な手段として、弊社でも新幹線と首都圏在来線では自動運転の実現を目指しています。自動運転というと「列車を動かして止める」という運転操縦を自動で行うことだけをイメージするかもしれません、私たちはお客様の流動に応じて列車の運行計画と運行管理も自動で行い、お客様への案内も自動で行う姿をイメージしています。その実現に向けて、従来の乗務員、車両、指令、信号、保安、システムといった縦割りの組織では、全体最適な仕組みを創ることが難しいと考え、弊社では、各分野の専門家を一同に集めて「次世代輸送システム推進センター」を発足させて、理想の自動運転の姿を実現することとしました。その実現に際しては、他の鉄道事業者とも連携して検討を行い、標準的な仕組みを構築することで、スケールメリットによるコストの最小化と品質向上を実現していきたいと考えています。そして、この仕組みの国際規格化に取り組み、メーカーと一緒に海外展開を行うことで、日本の鉄道のさらなる発展に貢献したいと考えています。

### 日本の鉄道を世界に広めたい ～列強はルールで制覇する～

日本の鉄道は世界一正確だと言われますが、日本式はあまり普及していません。コストが高いからとよく言われますが、国際ルールに則って売り込むことができていないからだと思います。市場を制覇する方法の一つに、市場のルールを自分たちに有利に作り込む、という方法があります。商品作りよりもルール作りに重点を置くことで、ルールに則っていないものや、ルールに則っていることを証明できないモノは、いかに品質が良くても採用されず、自分たちが提供する一定レベルのモノの販売を有利に進められることになります。日本では、良いモノを皆のために適正な価格で提供する、という美德がありますが、それは使っていただけて初めて実現するものです。使っていただくためには、世界における主流の考え方や仕組みの中に入るか、日本式を世界のルールに入れ込むか、どちらかになります。欧米のように各国が入り乱れる中で商売をしていくためには、世界共通ルール

の中で競争する、となります。残念ながら、「これでやるから大丈夫」がルールの主体であり、「実績が良いから」というものはありません。

現在、日本の鉄道技術を海外に展開するために、国、鉄道総合技術研究所、鉄道車両に関わるメーカー、鉄道事業者といった関係者が、日本の鉄道技術基準について体系化や国際規格との整合化に取り組んでいます。マネジメントプロセスも含めて、日本方式が世界でも同じ土俵に立てるように、私も取り組んでいきたいと思っています。

### 鉄道の経営資源を3つのサービスに活用する (輸送サービス、生活サービス、IT・Suicaサービス)

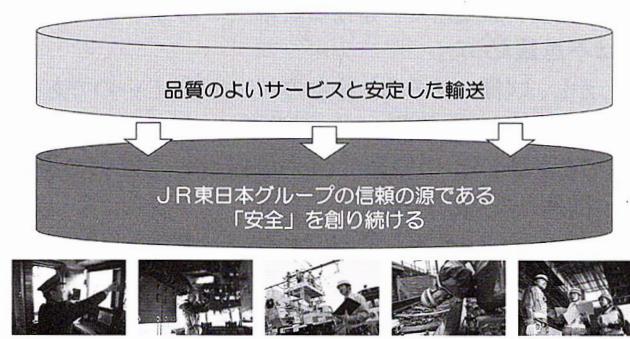
JR東日本は鉄道会社と誰もが思うでしょうが、コロナ禍前に中期経営構想「変革2027」を策定して、「鉄道起点からヒト起点へ」を掲げ、人々の暮らしを豊かにするために3つのサービス「輸送サービス」「生活サービス」「IT・Suicaサービス」を一つに重ね合わせて皆さんにお届けするグループ企業への変身を始めました。鉄道事業は成熟産業なので、コンパクトにコストミニマムで運営をして、着実に収益を出して社会に貢献しながら、他の事業へも貢献していくフェーズに入りました。今後とも、安全を創り続けて、その上に品質の良いサービスと安定した輸送を載せ続けていきます。

伝統よ 更に栄えあれ！

私は、これからも鉄道の新しい未来を創っていきます。

進む健児の意気高し！

私は、やりたいことが楽しくできるJR東日本グループを創っていきます。



〈JR東日本グループの信頼の源〉



## 人生は短い

元・(株)富岡会計事務所所長

富岡 昭晴

私達三人の兄弟は次々に「高高」を卒業して行った。しかし、最後の一人の時は少々心配だった。当時「安保問題」(1960~70)で国中が揺れに揺れていたからである。

当時、名門校のはずの「高高」もその名に恥じず(?)この問題で苦しんでいるに違いないと東京に出ていた二人の兄弟達は考えたのだった。

そこで電話を掛けた。

「生徒会は大丈夫か?」

弟は生徒会の会長をしていたのである。

「いや、実は大問題が発生していて揉めに揉めている。」と言うのだ。

やっぱりそうか。大変だろうな、と私は心配した。

「一年生が反発して、なかなか埒があかないんだ。」

なぜ「安保問題」で一年生と三年生が対立するのか。私達は不思議だった。

しかし、よく聞いてみると昼食のパンの事らしいのである。三年生がパンを全部買ってしまうので、一年生にまわってこないことが騒ぎ(?)の原因で、それが学校の生徒会の第一の大問題なのだそうである。

私達はホッとするやらガッカリするやら、力抜けしたものである。

これが名門校の現実である。---とまでは思わなかつたが、しかし、やはり食べることが一番大切なのだと思った。

とにかく、腹が減つては何もできないのだ。

下の弟はそんな騒ぎにも平気で、もっとちやっかりしていたようだ。

二人の兄が東京へ行ってしまったのですっかり自由になり、新橋やお茶の水、神田のガード下の一杯飲み屋で楽しくやっているらしいのを耳にして、早くオレも仲間に入りたいと思ったはずである。

ここで長兄の私であるが、安月給の霞ヶ関の国家公務員になつたばかりだった。

やがて下の弟も大学生になり、我々の仲間に入ってきたのである。

弟達は私の月給日を覚えていて、その前日になると「お兄ちゃん、今度はどこの店にする?」と催促をするのだった。

私はこの二人の弟が可愛くて仕方がないのである。

上の弟は「司法試験」を目指し、下の弟は多分「高文」のはずである。二人ともその試験に受かるることは確実なのだ。

それでは私はどうなるのか。

少しは国家試験というものにも関心はあったが、しかし、そんなに熱心ではなかった。

金さえあれば二人の弟を引き連れて、どこへでもいつでも飲み歩き回りたかったのである。

私が連れて行く飲み屋は、私のホームグラウンドであるとともに、弟達の大学の近くでもあった。その事は、つまり私は弟達の勉強の邪魔をしているようなものだったのである。

それから半世紀が経った。

一番目の弟は群馬県の弁護士会の会長を務めたりして、もらった奥さんも弁護士なのである。

下の弟は高崎市長をさせていただいている。

一方私は、20数年前に脳溢血という病気に罹り半身不随になってしまった。

それでも元気だった頃(松浦市長時代)は、市の教育委員長や監査委員もさせていただいたりして、少しは市民にとって役に立ったかなあと思つたりするのだった。

それにしても人生とは短いものである。



## ♪ぼくらフォークダンスの手をとれば～

### 翠巒祭・毎年開催への秘話



現代経営教育センター 代表  
(昭和38年度・生徒会長)

大塚 則弘

年に一度、織姫と彦星がめぐり逢う七夕のように、乗附の野に姫たちがやってきた。もう60年も前のこと、当時の女学生は白いソックスをくるぶしまで、丸く下ろしていた。

折しも季節は五月…、大輪のバラの香が校庭一杯に広がっている。今日は「第十一回・翠巒祭」の楽日だ。

しかし本来ならばこの年(昭和38年)は、祭りのない春であった。今でこそ毎年行われる翠巒祭だが、去年の十回を節目に、今後は“隔年開催”になろうとしていた。

「来年は開催無しだなんて…」、祭りのあとでの虚脱感のなかで、部活の中心がわかれら二年生に移り、生徒会長選も行われるという。

会長選とはいえ、ここ数年は信任投票の様(ざま)だった。「選挙戦になれば、それが活性化につながるのでは…」、そう思う有志二人が揃った。久方ぶりの選挙だ。

対立候補が「生徒会活動の活性化策」を掲げるなかで、当陣営は「来春、翠巒祭をやろう」の一点盛り。

かつて小泉総理が、郵政民営化一本鎗で勝負した時より40年も早く、一点勝負を展開。

投票結果は同期二年生票で互角。卒業していく三年生票では負けたが、後輩の一年生票と、各運動部での締め付けが効いて僅差で勝てた。

さて在校生の意思は判明したが、学校側の意向が自動的にそうなったわけではない。それからといふのは学校側に開催を認めてもらえるよう、努力・研鑽を積んだ。

(1)限りある生徒会予算では二兎は追えないから、結果が分かりやすい運動部に予算をつぎ込み実績を残す。

(2)広報の大切さを分かっていたから生徒会誌『群馬』を復刊させ、全校恩師から卒業メッセージを頂いて、卒業式の先輩に間に合わせた。

そして(3)市内6校の生徒会(高女・高市女・高商・高工・佐藤技芸)と連携を深め、月一での交流会を持った。これが楽しかった。卒業前には6校の執行部30人近くと、各校顧問の先生方で荒船山に登った。高女のひとりが日射病で倒れた。

あ、今は昔。  
〈日経短歌・出〉

モノクロに 笑まふ女生徒 消息は いま緩和ケア病棟と いふ  
・亜麻色の お下げを背なし 携らしてた 伴侶このごろ 膝に水持つ

「最上級生で仕切りてえなあ…」、素朴な想いは63期全員に浸透し、生徒会活動を急速に活性化させた。こうした実績が実ってか『来春開催の決定』を頂いた。うれしかった。

前夜祭はファイバー・ストームを高々と燃え上がらせ、全校生徒が円陣を組み、校歌・応援歌「翠巒」はもちろん、戦前のクラス会の歌まで高吟した。

実行委員はすべて同級生で臨んだ。下級生を阻んだわけではないが、「俺も入れろ」の連呼の声ですぐに満員になった。それだけ開催にかける想いが強かったのだ。

学芸部は公開展示、運動部は他校との招待試合…。やがて自慢の広い校庭に、軽快なオクラホマ・ミキサーが流れる。待ちに待った瞬間である。照れと嬉しさを白線二本の学帽で隠す。姫たちとの楽しいお遊戯は、やがて陰調のコロブチカに代わる。まさに“♪ぼくら フォークダンスの手をとれば 甘く匂うよお 黒髪が～”の青春であった。

フナーレは大講堂に移っての「紅白歌合戦」、運動部 vs 学芸部の対抗戦だ。演奏は結成後もないマンドリン俱楽部、足りないところは吹奏楽部がサポートした。まだ姫たちは残ってくれている。三日間の最後を飾るにふさわしい出し物だ。

われら現77歳が17才で青春の血をたぎらせたのが第11回、あれから六十年の歳月が流れ、今春2022年は節目の70回という。正にめでたい。

文末ながら毎年開催に至った陰には、多くの先生方のご支援があったことを63期生は忘れない。

名代・田中悦平校長の3F精神：Fait、Fairness、Friendshipが、教師・生徒に浸透し、生徒会総務を担当された田島両先生や立石先生らの温かい後ろ盾があつてのことだ。大人になつたいま、支援の素振りを表立つて見せない処に先生方の器を感じ、その教えを受けられたことを幸せに思う。

やはり高高は良い学校である。はじめ、高高門下生たちよ。  
※悦平校長は、われらの卒業を待つ同じ春、最長11年間の職を勇退された。



相撲十和田大会の帰路、十和田湖畔

## 柔道とともに

群馬県柔道連盟会長

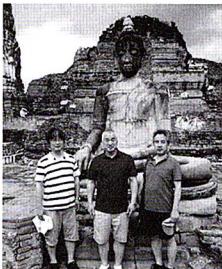
鳥居 吉二

高校教諭退職後6年間が経過した現在、高高の同級生と活動を共にする機会が増えています。先般は同時期に高高勤務をした高高同級生3人で、高高的教え子を頼ってのタイ旅行を楽しみました。教え子のA君(102期)は筆者高高体育教師鳥居吉二の柔道部の部員。同行の高高英語教師K氏とは担任と生徒。同行の高高音楽教師H氏とは音楽授業の生徒。K君は柔道部きっての寝技の名手。学業優秀で慶應大学卒業後もなく公認会計士資格取得。就職先の公認会計士法人の海外勤務でタイに居住。3年間の在任期間中にぜひタイ旅行にという教え子の言葉に甘えて、高高73期の同級生が童心に戻り珍道中を満喫しました。

気の合う仲間と旅・ゴルフ・月見の会(飲み会)などに半分、柔道ボランティアとしての公務に半分、力を使いながら過ごしております。

柔道ボランティアとして現在、群馬県柔道連盟の会長を仰せつかり、老若男女2000名を超える会員の舵取り役を自認しております。群馬県柔道連盟は戦後、昭和25年に発足し、私で10代目の会長になります。定例の会議で情報の共有、また事務局会議等への参画、各種大会や事業への参加など多忙ではありますがあり甲斐があります。毎週火曜日の夜に行われる県下の合同練習会には小学生から社会人まで年齢層別の時間設定に多くの柔道修行者が集まります。週に一回ですが、必ず柔道着で顔を出すようにしています。若い方々が柔道に汗を流す姿を見ると、こちらがパワーをもらいます。この人たちのために、会長として力を尽くさねばならないと感じています。

私の柔道経験をたどると以下になります。中学校入学とともに入部、兄の高校の稽古に時々参加、昭和46年に高崎高校で入部。辛い合宿は、米持参の時代でした。大学生やOBが練習に駆けつけ胸を貸してくれ、洞窟観音の階段ダッシュもあり、辛くも楽しかった合宿が思い出されます。合わせて相撲も



高高同級生3人とタイ旅行

行い全国大会にも出させてもらいました

高校二年生の終わりに、文系理系の進路選択を行いました。東電勤務の技術屋であった親父の勧めで理系を選びました。いざ大学受験になり、理系の学校を受験しましたが、一方で柔道に関わる筑波大学の体育を受験しました。うまく合格したので、進路を変更し体育専攻の道に進みました。大学に入ってみると、講道館柔道の創始者嘉納治五郎師範直系の孫弟子に当たる先生が主任教授であり、専門書の著書に名を連ねるような先生方が揃っていました。私は無名の選手でしたが、4年間修行のち茨城県予選優勝をへて国体代表選手5名に選ばれました。他の4名は日本を代表するような選手でした。青森で行われた国体では、無敵のチャンピオン山下泰裕選手を擁する神奈川県に破れ準優勝がありました。

スポーツ数理統計学の松浦義行先生につき卒論を書き、多くの同級生が大学院に進みましたが、当時群馬県では6年後の国体開催が決定しており、地元群馬での活躍を夢見て、高校体育教師になり、柔道三昧の生活を送らせていただきました。本大会では決勝で東京都に破れ準優勝でしたが、多くの地元柔道関係者や県民の声援をいただき、力を出し尽くした実感がありました。

38年間県立高校に勤務し、部顧問として柔道に関わり、県大会・関東大会・全国大会を引率し、高校生の汗と涙の場面に多く立ち会わせていただきました。

自分を育てくれた国体が、7年後の2029年に二巡目として群馬で開催されます。今的小学高学年が高校生になった時、また中高生が大学生や社会人となって大会に臨むはずです。国体というものの位置付けが揺れている現在、選手の皆さんのが、迷いなく純粋に大会に臨める環境ができればいいなど考えております。教員在任時から群馬県柔道連盟の活動には積極的に関わりたいと考え、強化部長、広報部長、副理事長、理事長、副会長を歴任しました。教員を退職した現在、会長職を全うすべく奮闘中です。

## 寄稿

83期



## あさま山荘事件と小野リサ

ブラジル料理アウボラーダ オーナー

黒澤 修二

昭和47年2月、世間を揺るがせたあさま山荘事件が起きた。当時新聞販売店をやっていた松井田の実家は現場から一番近い店ということで、電源を貸してくれと新聞記者が押し寄せた。東京本社に記事を送ったり、電送機で写真を送る姿みて、小学校に上がる前の私は「かっこいい！」と思い、将来は新聞記者になりたいという夢を持った。

新聞記者になるには大学の政治学科へ、そのためには絶対に高高へ！具体的にそう思ったのは4つ上の兄が高高に入学した小学6年の頃だった。兄からは高高の楽しさ、自由な高校生活の話を毎日のように聞いていた。高高への憧れは広がっていった。

3年間の高校生活はとにかく楽しかった。1200人を超える男ばかりの社会。それだけに周囲の目を気にすることもなくのびのびと過ごすことができた。翠巒祭の紅白歌合戦、前高との定期戦、ラグビーの授業も楽しかった。真下のカレー、コロッケパンも美味かった。高女との交流会なんて楽しい時間もあった。田舎町で育ったので学校や塾帰りに友達と喫茶店や食事に行くのも楽しかった。モーニン、白馬車、水出しコーヒーのキートン、写楽、スパゲティ・ジル、そして東竜。懐かしい思い出ばかりだ。

大学受験は当初の予定通りに政治学科だけを受けて、現役で明治大学の政経学部政治学科へ進んだ。3年からは「マスコミ研究室」に入り、いよいよ新聞社に行く準備を始めた。ところが徐々に新聞というメディアに対する興味が薄ってきた。雑誌の方が自由度は高いんじゃないか、スポーツメディアもいいんじゃないかを思い始め、結果ゴルフダイジェストというゴルフ専門出版社に入社した。社内には都立名門校出身の東京人が多かった。「都内は選択肢が多いけど、地方はその進学校一択。だからお前たちの方がすごいんだよ」と先輩に言われた。高崎高校という名前、ブランドは都内

でも強かった。

憧れのマスコミで編集者として取材、原稿書き、徹夜の校正、時には海外取材と12年働いたが、少し疲れというか飽きが出てきた。34歳だった。その頃に聴いていた音楽といえばすべてロックやアメリカポップスだったのに、たまたまどこかで聴いたメロディがなんだかジーンと疲れた心の沁みたのだった。それが小野リサの歌うボサノバだった。

会社を辞めよう！そしてブラジルへ行こう！ブラジルでボサノバを聴こう！まったく言葉もわからないまま旅立った。北へ南へと思いのままに自由な旅行を楽しんだ。今まで感じたことのないゼロプレッシャーの生活。充実した2ヶ月の放電時間だった。

ブラジルから帰ったあとは、再びマスコミに戻ることなく飲食の道に進んだ。マスコミという夢に加えて、いつかは喫茶店かバーのマスターという気持ちもあった。高高時代に市内あちこちの喫茶店に行っていたことが一因になっているのかもしれない。

サラリーマン時代に通っていた吉祥寺の店を譲り受け、店名を「アウボラーダ」として、ブラジル専門のバルとして2004年9月7日から新生活が始まった。これはポルトガル語で夜明け、転じてスタートという意味になる。9月7日はブラジルの独立記念日、その日をオープン日としたのは小野リサのボサノバに導かれた新たな始まりという意味もあった。コロナ禍で厳しい時期ではあるが、地元の常連さん、音楽関係者、ブラジル滞在経験者、日本で働くブラジル人、交換留学のブラジル人学生、いろいろな人に支えられて、なんとかここまでやってこられた。吉祥寺にお越しの際はぜひお立ち寄りください。高高トークで盛り上がれたらこんなにうれしいことはない。ライブ営業の日もあるのでウェブサイトでぜひスケジュールのご確認を！ <http://www.alvorada.jp/>

## 寄稿

93期



群馬小型運送株式会社  
代表取締役社長

川手 和義

## コロナ禍の物流業界

私は、生まれも育ちも高崎市。市内の小学校、中学校を経て、高崎高校に入学しました。小学校から中学校までは、日々サッカーに明け暮れていきました。しかしながら、なぜか高校では硬式野球部に入部。子供の頃から野球も大好きではあったものの、まさか自分が高校から野球を始めるとは思っていませんでした。振り返ると、高校時代の想い出は、想定外に始めた野球のことばかりで、勉強をした記憶は一切ありません。それゆえ、高校卒業後は一年の浪人生活。その後、都内の大学へ進学しましたが、高校生活の反省が生かされることもなく、大学では一年留年した次第です。大学卒業後は、地元高崎へ戻り、現在勤める会社に就職をしました。就職といっても、現在私が勤める会社は、祖父が創業し、父が2代目、私が3代目となるいわば家業で、トラック輸送を中心とした物流会社です。

物流は『産業の血液』と称され、社会インフラを担う重要な業界です。しかしながら、個人宅配が主流となった現代では、安全に、そして迅速にモノが届くことは当然で、私自身もううですが、日常生活の中で、その重要性を改めて認識する機会は、あまりないように感じます。

少し話がそれますが、この寄稿文を書いている今、私は新型コロナウイルスに感染し、自宅療養中となります。感染当初は、自宅から10日間も出られないことを憂いましたが、お馴染みのAmazonやUberのおかげで、ほとんど不自由なく生活ができます。もちろん、普段から便利であることはわかっていましたが、このような状況となり、改めてそのサービスの利便性に感心してしまいます。この度の新型コロナウイルスの世界的流行や、東日本大震災のような大災害が、二度と起こらないことを願うばかりですが、このような危機的状況になり、物流の重要性を実感する人も多いかと思います。

ところで、物流業界では、ここ数年の間、人材不足が大きな課題となっています。そのため、物流コストは上昇し、今後さらに生産人口が減少すれば、状況はますます厳しいものとなり、『物流危機』という言葉さえ生まれています。一方で、『ロジ

スティクス4.0』という、物流業界に進みつつある、新たなイノベーションがあります。どのようなことかというと、IoTやAI、またはロボットといった次世代テクノロジーの進化や活用の拡大による省人化や標準化によって『物流の装置産業化』が起こり始めているのです。皆さんの身近なところですと、自動車の自動運転やドローンによる配達などが思い出されるところかなと思います。

このような革新を、地方の中小物流会社がどこまで対応できるのか、どのように、何をしていいのか、勉強不足であり、まだ未熟な私には想像もできません。しかしながら、地元高崎で働いてるからこそ、これまで、同窓の方々に仕事の相談にのっていたり、時には仕事をいただいたり、指導していただくことがあります。思えば、高崎高校出身というだけで、諸先輩方が何でも教えてくれました。今は、高崎高校の卒業生であることに感謝するばかりです(笑)

現在、私の勤める会社は、ここ高崎以外に、宮城県、埼玉県、静岡県に拠点を設け、物流業を中心に事業展開しています。父から家業を引き継ぎ、ここまで生き残ることができて、先述した諸先輩方のお力によるものが大きいと感じています。トラックには“GKU”という文字が大きく入っています。G=群馬、K=小型、U=運送、という何とも単純な社名の頭文字を取ったものです。皆さんも、この文字が入ったトラックを見かけたら、思い出していただけると幸いです。ここ2年の新型コロナウイルスの影響や原油価格の高騰など、経営環境は激しく変化し続けますが、諸先輩方にいたいたこれまでの指導を生かし、これからも頑張っていきたいと思います。

再来年2024年には、同窓会の幹事期が控えています。それゆえ、最近は、ますます高崎高校の同窓生と関わる機会が増えました。少し大変だな…と感じることがないわけではありませんが、、これも良い機会をとらえ、何十年かぶりに同級生皆と一緒に頑張りたいと思いますので、引き続きご指導の程よろしくお願ひします。

## 同窓会だより

## 第121回高中・高高同窓会新年総会・懇親会のご案内

92期 代表幹事  
平和衡機株式会社 代表取締役社長 **横田 裕正**



同窓会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

第121回同窓会新年総会の当番幹事を務めます92期代表の横田と申します。

新型コロナウイルス感染症は、いまだ収束する気配が見えない状況ではございますが、来年1月28日(土)に第121回同窓会新年総会・懇親会を開催させていただきたいと存じます。

コロナ禍での対策に万全を期し、会場も例年と異なり、ビエント高崎(問屋町)での開催を予定しております。つきましては、ご多忙のところ恐縮ではございますが、多数の同窓生の皆様に

新年総会・懇親会にご出席賜りたく、ご案内申し上げます。

なお、会場内の感染防止対策につきましても、万全の体制にて臨むべく準備を進めており、例年の新年総会・懇親会とは一部異なる形式での実施予定となりますことをご了承ください。ご来場の皆様におかれましても、マスク着用、手指消毒など感染予防対策にご協力をお願いいたします。

当番期として、多くの同級生と一致団結し、皆様の思い出に残る新年総会・懇親会となるよう精一杯設営してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

**第121回 高中・高高同窓会  
新年総会・懇親会**

【日 時】 令和5年1月28日(土)  
【会 場】 ビエント高崎(高崎市問屋町2-7) TEL:027-361-8243  
【会 費】 お一人様5,000円  
  
新年総会: エクセルホール 15時より  
懇親会: ビッグキューブ 16時頃より(期ごとの着座形式の予定)

※コロナ禍の開催のため、やむを得ず中止の場合がございます。

その際には返金をせず同窓会に寄付とさせていただきます。予めご了承願います。

※新型コロナウイルス感染症対策を徹底するため、下記のいずれかの条件を満たしていることを、総会および懇親会の参加条件とさせていただきます。

- ・ワクチンを3回以上接種している または、
- ・PCR検査または抗原定量検査の結果が陰性である

当日受付の際に、自己申告にて申請していただきますので、ご協力よろしくお願ひいたします。

## 令和4年度高崎高校人事異動

### [全日制]

### [通信制]

#### 〈退任者・転出者〉

英語	田島 悅男	定年退職
国語	大隅 昭彦	定年退職
理科	長谷川忠史	定年退職
国語	竹内 聰	定年退職
体育	境原 尚樹	中央中等
社会	西村 淳也	前橋南高
音楽	黒岩 伸枝	太田高
社会	小島 敦子	盲学校
体育	新井 康司	藤岡中央高(定)
数学	池永 真孝	渋川女子高
英語	須田 韶二	伊勢崎商業高
社会	反町 豊	学校人事課
理科	中島 康彦	前橋高
理科	工藤 洋平	渋川女子高
通級(併)	佐藤 利正	勧奨退職

#### 〈新任者・再任用者〉

英語	田島 悅男	再任用教員として任用
国語	大隅 昭彦	再任用教員として任用
理科	長谷川忠史	再任用教員として任用
国語	竹内 聰	再任用教員として任用
体育	高島喜美夫	桐生高
社会	池田 賢一	富岡高
音楽	織田 大地	中央中等
社会	廣井 達人	沼女高(再任用)
体育	稻垣 圭吾	安中総合高
数学	小林 浩	太田高
英語	横田 謙人	高経附高
社会	齋藤 幸男	中央中等
理科	金谷 学	高崎女子高
理科	飯野 道彦	太田高
通級(併)	関口富美子	伊勢崎晴明高
英語	木本 陽子	渋川女子高
(休職補)		

#### 〈転出者〉

英語	川崎 洋一	定年退職
社会	富田 一仁	定年退職
国語	佐藤 宏江	定年退職
理科	西山 幸伸	藤岡工業高
英語	川崎 洋一	再任用教員として任用
社会	富田 一仁	再任用教員として任用
国語	永島 政彦	太フレ高(再任用)
理科	山田 誠一	前橋清綾高(再任用)
数学	村田 龍弥	新採用 (地公臨)

### [事務部]

学校司書	角田 奈々	中央中等
司書専門員	小宮山栄子	高崎商業高

#### 〈転出者〉

学校司書 角田 奈々 中央中等

#### 〈転入者〉

司書専門員 小宮山栄子 高崎商業高

## ◆◆掲示板◆◆

## 同期の皆様へ

**49期 高橋 一夫 Tel.027-362-9043**

49期の皆様、いかがお過ごしでしょうか。思いもよらないコロナ禍のため、毎年開催の歴史ある同窓会を3年続けて中止、誠に残念。

最終70回を来年こそ開催と期待し、同期諸兄のご健勝と事態の好転を祈って居ります。

**50期 八木 資親 Tel.090-5393-7520**

y.yagi.1932-yoshi.docomo

1951年の卒業から71年の歳月が流れ卒寿を迎えた。成長期の最悪の食糧事情等を考えると、よくぞこの歳まで生き永らえたと感無量である。コロナ禍や猛暑等も勘案し、本年「納めの同期会」を是非開催したい。

**52期 深澤 岩吉 Tel.090-4954-7045**

iwakichi1131@docomo.ne.jp

新高会の総会は納会しましたが、有志の懇親会を毎月開催しています。コロナ禍のため、近隣の52期生の交流会ですが、社会情勢への関心、健康に努めながら近況を語り合い、元気を得ています。参加希望者は深澤まで。 iwakichi1131@nifty.com

**54期 田端 穂**

卒業して67年「五四会」として活動を続け、この間卒業50年記念モニュメントの設置、塚田先生の納骨、五四会作品展開催等、その存在感を示してきたが、ボチボチ終活。仕舞いはやっぱり大宴会か。乞ご期待!

**56期 湯浅 潔 Tel.090-7829-3820**

拝啓 56期の皆様は元気のことと思います。

令和5年1月28日(土)には56会の新年会を開催したいと思います。アトラクションでは津軽三味線の演奏を企画して居ります。

ぜひ来年こそは56会を楽しみにして下さい。

**58期 若山 享 Tel.090-4459-5483**

残念ですが、同期会はコロナの為延期とします。毎年開催、延期、中止で迷います。コロナが勝つか、寿命が勝つか。皆、口は達者でも体が動きません。再開は改めて連絡します。皆さんの健勝を祈ります。

**63期 羽鳥 修司 Tel.090-8683-0323**

hatori.uonaka@dan.wind.ne.jp

63期は今年77才の喜寿をむかえます。同窓会報が発送されるころには終っていますが、十月十五日一時より祝いの会を開催致します。連絡先は代表幹事まで。

**64期 斎藤 直躬 Tel.090-1033-7683**

sh23225@dk9-sonet.ne.jp

我が同期の自慢は富岡高崎市長です。コロナの流行で同期の集まりは皆無。しかし私の故郷榛名は、市長の名案・ハルヒル・梅マラソン・トライアスロンで、その名を世の中に広めて頂きました。富岡市長に感謝・乾杯。

**71期 坂本 正樹 Tel.027-327-7717**

nana710msaka172@yahoo.ne.jp

毎月の定例会(井野駅前のオリーブ)は、依然開催できていません。新年の全体総会・懇親会は現時点では開催予定なので、その場で集まれればと願っています。ゴルフ大会と母校バラ園整備は、精力的にやっています。

**72期 糸井 丈之 Tel.090-3149-7140**

現在72期同期生に呼びかけているのは、72期グループラインへの参加です。参加希望の方は090-3140-4225 山県まで電話下さい。  
まだ41名の登録者です。100名以上にしたいものです。

**76期 須郷 弘 Tel.090-3149-7299**

hiroshi-s@daiwas.jp

60歳代は70歳になる為の大切な時間。素敵な70歳代になるようしっかり仕込むようにしましょうか!! 3F精神も年を重ねるにつれ成熟して行くものなのか!? 2024年パリ五輪の年76は集います。

**77期 松本 基志 Tel.090-1604-4689**

motoshi@able.ocn.ne.jp

卒業10年目から、夏のオリンピックに合わせて同窓会を開催してきましたが、残念ながら、今年も延期としました。早くコロナが収束して、また皆で会える日を楽しみにしています。それまで、皆さんお元気で。

# メッセージ

## ◆各期代表幹事◆

**78期 高橋 浩生 Tel.090-3246-5547**  
toorih.e15-0108@dream.com

第121回新年総会同窓会の後、78期会を開催いたします！出席できる方は、高橋浩生まで連絡するか「調整さん」に入力をお願いします。なお、78期メーリングリストから配信が無い方はアドレスをメールで教えてください。

**80期 笹口 修男 Tel.090-8305-3805**  
mssasaguchi@m2.dion.ne.jp

“朝には青糸の如く、暮れには雪の如し”李白は言いました。気が付けば還暦、今年こそは、状況が許せば、同期会をぜひやりたいと思っています。場所は……ここ数年、夜の街に出ていないので、状況がわからず、まだ決められません。どこかいいところあつたら教えてください。

**81期 岩井 均**  
htsiwai39@ybb.ne.jp

同窓会新年総会・懇親会終了後には、81期としての懇親会を予定しています。改めてご連絡させて頂きますので、是非多くの皆様のご参加をお待ちしています。

**82期 野口 俊康**  
yasunog555@icloud.com

同窓会の新年総会、ゴルフ大会などの案内を年に数回メールで発信しています。最近案内が届いていないと思われる方は、事務局の花井君(hanai@inouedoro.co.jp)までメールしてください。

**85期 富田 和弘 Tel.090-3214-3214**  
kaz@rise-hoken.com

令和5年5月21日の高崎高校同窓会ゴルフ大会の幹事は85期が担当させていただきます。しばらく出来ていな同期会、コンペも予定していますのでご参加お待ちしています。

**87期 静 和彦 Tel.027-361-4165**  
shizukak@sea.plala.or.jp

こんにちは。87期の静です。ここ数年はコロナ感染症でなかなかみんなが集まる機会が少なくなっていましたが、是非とも、今度の新年会総会では楽しくやりたいと思っています。

**88期 亀田 慎也 Tel.090-3683-8931**  
kameda0816@gmail.com

コロナ禍で同期の仲間と顔を合わす機会がめっきり減ってしまいました。新年総会には必ず数名は参加してますので、案内が届きましたら、気にかけて下さい。また当時の先生もお呼びして、同期会を開催しましょう。

**90期 清水 敬清 Tel.080-5095-5191**  
ak12license.a@gmail.com

親愛なる諸兄へ。同期会開催や来年の新年総会への90期としての参加は、コロナ感染状況を見て是々非々で判断していきます。動向は90期LINEに流すので、諸兄の意見も寄せて下さい。よろしくお願ひします。

**91期 市川 英久 Tel.090-7105-7406**  
H\_ichikawa@yuuhachi.co.jp

第120回新年総会では大変お世話になりました。コロナ禍で懇親会が実施できず、誠に申し訳ございませんでした。91期の皆さん、今後とも同窓会を盛り上げていきましょう。

**92期 横田 裕正 Tel.090-8720-3313**  
teams00092@gmail.com

2023年1月28日(土)の同窓会新年総会を我々92期が幹事期として取り仕切れます。同期の連絡は主にグループLINEで行っており、9月5日現在134名の同級生が登録してくれています。未登録の方は連絡をください。

**94期 廣瀬 一成 Tel.080-5471-5207**  
Kazushige.hirose@bnngu.co.jp

94期はFacebookやLINEで、こまめに情報共有しています。ぜひ参加をお願いします。Fbはグループで、94期高崎高校で探せると思います。まずは連絡先だけでも共有しましょう。

**通信制 山本 好一 Tel.090-2543-3014**

令和5年2月19日(日)令和4年度定期総会を高崎高校会議室で開催します。総会後、懇親会を予定しています。コロナの状況により中止することがあります。多くの会員の参加をお願いします。

## [活動報告]

本年1月21日の同窓会新年総会をもちまして本部幹事長を退任し、4月1日より翠巒育英会の常務理事に就任いたしました。この経緯は、常務理事の中村康晴氏(73期)の本業の多忙さより交代したいとの意思が示され、時間に余裕のできる小生が「代わってやろうか!」「是非お願ひします!」との交わした会話がきっかけでした。評議員会、理事会の承認を得まして就任いたしました。

公益財団法人は法律に基づき、県広聴課公益法人係への決算報告が毎年度義務づけられ、同時に資金の使い方、組織人事の報告等、結構詳細なチェックも受ける届出が必要です。県庁に出向き、面談も2回に渡り、ようやく受け付けていただくことができました。この面倒な届出を若山亭(すすむ)元常務理事、中村前常務理事が続けてきたことに敬意を表します。本当にお疲れ様でした。

育英会は法人ですので、2年ごとに法務局への理事の届出、監事・評議員は4年ごとの届出義務があります。これには評議委員会議事録、理事会議事録、就任承諾書、新任者は本人証明書の添付が必要になります。法務局に届け書を持参いたしましたが、見事に訂正指導をいただき、再作成しました書類への捺印依頼に駆け巡りました。3年に1度の県機関の立入検査もあります。指摘事項でまだ対応すべき案件が残っております。

財団法人翠巒育英会の設立は昭和60年に発足しています。当初県内女子高も含む6校を対象としていましたが、母校生徒に限定変更することで、募集事務の負担軽減と共に、同窓生諸兄のご理解も賜りやすくなり、運営面での大きなメリットとなりました。奨学生も累計154名とな

り、奨学金累計も5,500万円を超えております。

奨学金運営も当初は高利回り利子と、褒章を受けられた方々からのご厚志に頼りまかなっていましたが、その後ゼロ金利政策もあり、設立に携わりました故田中順氏(51期)も資金のやりくりに奔走していましたと伺っております。公益財団法人化後も、当時事務長されていた青木勝氏も基本財産を取り崩すことになってしまふと、本当に心配されていました。小生が同窓会本部幹事長として、「財政安定化」を目指し、維持会費納入率をどう高めているか課題として取り組み模索する中で、自身の納税をコンビニエンスストアで行っていることにヒントを得、維持会費もコンビニ扱い出来ないかと思いつきました。この維持会費コンビニ払いと併せて、育英会の寄付も同時に進めようと言うことで、平成25年当時の羽鳥進一校長、青木事務長、佐藤和徳同窓会長、田端穰翠巒育英会理事長、若山常務理事と詳細を詰め、最終的に同窓生全員に1,000円のご寄付をお願いすることで理事会の承認を得、前に進めることが出来ました。毎年安定して同窓会維持会費には約2,700名ご賛同いただき、育英会には1,600名以上のご寄付をそれぞれ納付いただいております。

毎年褒章受章者の皆様、ご厚志での高額ご寄付者の皆様はご存じのことと拝察申し上げますが、当育英会へのご寄付は所得からの寄付金控除の対象となっております。当会より「税額控除に係わる証明書」を発行いたしますので是非ご活用下さい。

今後とも引き続き当会へ熱きご支援賜りますよう心よりお願い申し上げます。  
常務理事 立見 友孝(63期)

## 第28回高崎高校同窓会ゴルフ大会結果報告

■開催日 2022年5月22日(日) ■開催場所 サンコー72カントリークラブ ■参加人数 178名 ■当番幹事期 84期

●団体戦(各期上位4名のトータルスコア)  
《グロスの部》

順位	期	GROSS
優勝	81期	318
準優勝	85期	322
3位	89期	341

《ネットの部》

順位	期	GROSS	HDCP	NET
優勝	85期	338	49.2	288.8
準優勝	81期	326	33.6	292.4
3位	82期	362	64.8	297.2

●個人戦 《コース別ベストグロス》

順位	氏名	期	GROSS
INコース	吉田 和人	81期	36
OUTコース	井上 豊	67期	40

《ネットの部》

順位	氏名	期	GROSS	HDCP	NET
優勝	片野 秀明	76期	44	9.6	34.4
準優勝	熊井戸浩一	78期	42	7.2	34.8
3位	渡邊 俊裕	81期	36	1.2	34.8



朝から雨模様でしたが時間につれ陽も射てきて、事故もなく多くの皆様に楽しんでいただけた大会になりました。参加の皆様ありがとうございました。  
84期幹事一同 執筆者:柏川 泰彦

# 「翠巒育英会」◆◆

担当者:立見 友孝(63期) PR

## 理事・監事名簿(任期R4.4.1～R6.3.31)

No.	役職	卒業期	氏名
1	代表理事/理事長	67	串田 紀之
2	理事/副理事長	71	坂本 正樹
3	理事/副理事長	75	清水 正郎
4	理事/常務理事	63	立見 友孝(新)
5	理事	58	若山 亨
6	理事	73	中村 康晴
7	理事	75	島田 雅典
8	理事	76	根岸 赴夫
9	監事	77	松岡 光弘
10	監事	80	梁瀬 剛(新)

理事横田貞一氏、監事高橋浩生氏は退任致しました。

## 令和3年度事業報告

令和3年 5月10日	第1期奨学金交付【440,000円】(3年生6名、2年生5名)
5月28日	第1回評議委員会(書面による表決) 【令和2年度事業報告・決算報告、令和3年度事業計画・収支予算、令和3年度理事・監事の選任等】 第1回理事会(書面による表決) 【令和2年度事業報告・決算報告、令和3年度事業計画・収支予算、令和3年度理事・監事の選任等】
6月30日	令和3年度奨学生採用選考会(申請者8名、採用6名)
7月9日	奨学生採用通知書伝達式(1年6名)
7月9日	第1期分奨学金交付【200,000円】(令和3年度採用1年6名)
7月28日	陸上競技部全国高校陸上競技選手権大会出場補助金贈呈
8月2日	全国総合文化祭出場部に補助金贈呈 新聞部、マンドリン部、囲碁将棋部
8月10日	マイクロバス購入に300万円補助(理事会、評議委員会承認)
8月23日	第2期分奨学金交付【640,000円】(1年～3年16名)
12月2日	奨学生1名(3年)退学により返金40,000円(雑収益に繰入)
12月16日	第3期分奨学金交付【600,000円】(1年～3年15名)
令和4年 1月22日	厚志寄付者に感謝状贈呈(新年同窓会総会にて)

## 奨学金給付状況

1年生.....6名  
2年生.....5名  
3年生.....5名  
給付額:毎月1万円

## 厚志寄付・感謝状贈呈者(敬称略)

期	ご芳名	期	ご芳名
54期	有賀 明	54期	田端 穂
54期	冬木 金雄	60期	高橋 昭雄
63期	立見 友孝	67期	串田 紀之
67期	浅見 薫	73期	中村 康晴
76期	関口 功	79期	上原 政昭
84期	同窓会ゴルフ大会幹事		

## 令和3年度決算書

(単位・円)

### ■収入

正味財産(基金)運用益	903
寄付金	3,531,000
雑収益	40,000
普通預金利息	17
<b>合計</b>	<b>3,571,920</b>

### ■支出

事務費	奨学金	1,880,000
	学校教育補助費	40,000
	(全国大会出場した部活動への補助)	
	教育環境整備補助	3,000,000
	(マイクロバス購入補助)	
事務処理委託料		300,000
寄付金取扱手数料		290,015
通信費		5,200
消耗品費		44,550
振込手数料		2,640
雑費		21,154
管理費	通信費	4,410
	納税証明書	1,100
	雑費	341
<b>合計</b>		<b>5,589,410</b>

3,571,920 - 5,589,410 = △2,017,490(正味財産減)

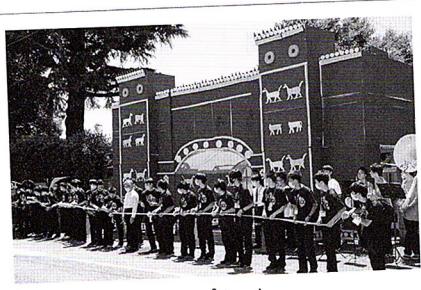
### ■正味財産(基金)

\*当期末残高 50,245,012

(注)上記決算書は当法人の決算書の様式と異なりますが、皆様にわかりやすくするため、一般的な収支報告書の様式にて表示いたしました。

# 母校だより

6月4日(土)・5日(日) 第70回 翠巒祭 テーマ「Fiat LXX～光あれ～」



テープカット



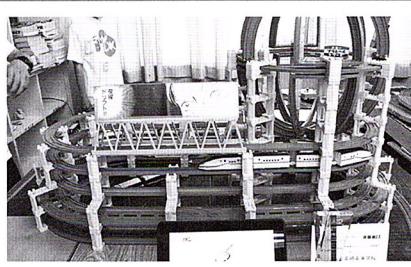
巨大壁画



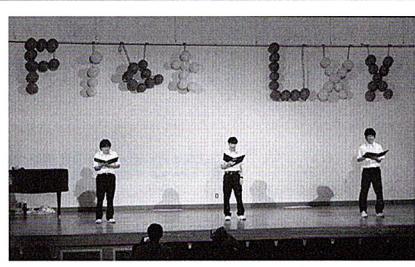
吹奏楽部



クラス展示



鉄道研究部



合唱部

3年ぶりの有観客開催となった第70回翠巒祭。始まりのテープカットをしてファンファーレが鳴った瞬間の感動は、今でも鮮明に蘇ってきます。

思えば、本番に至るまでには様々な困難がありました。コロナ禍にあってどのようにしたら安全な翠巒祭ができるのか。今までの企画をどう受け継ぎ、どう進化させるのか。意見の対立もあり、まさに試行錯誤の連続でした。それでも、今回のテーマ「Fiat LXX～光あれ～」の言葉通り、少しづつ有観客開催と

いう「光」を見出してきた1年間だったと思います。実行委員全員の努力の甲斐あって、大盛況のうちに本番を終えることができました。

支えてくれた副実行委員長の2人、チーフ陣、実行委員、一般生徒、先生方、卒業生の皆さん、保護者の皆さんに心から感謝しています。ありがとうございました。

実行委員長 3年 砂盃 謙

## 活躍部活動紹介

### 運動部

【通信制陸上部】第57回全国高等学校定期制・通信制陸上競技大会

- ・男子 100m 第2位 中島 綾佑
- ・男子 200m 第3位 中島 綾佑
- ・男子 800m 決勝出場 関口 晃毅
- ・男子 5000m 第2位 関口 晃毅

### 学芸部

【囲碁・将棋部】第46回全国高校総合文化祭 囲碁部門 出場 群馬県チーム主将 市村 直太郎

【SSH部】ぐんまプログラミングアワード2022 アプリケーション部門優勝 高田 悠希、寺田 光里

【物理部】ぐんまプログラミングアワード2022 MVP・総務大臣賞、IoT部門優勝 佐藤 弘基

Q-1~u-18が未来を変える★研究発表show~(テレビ番組) 最優秀イノベーター 高田 悠希

【文芸部】第25回「俳句甲子園」全国大会 団体出場 個人 入選 山岸 春貴

第三回センバツ!全国高校生即吟俳句選手権 第7位 吉野 貴翔 特別賞 香川 直寛

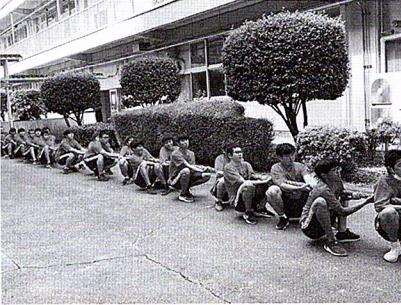
【マンドリン部】令和4年度 全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクール 優良賞

【和太鼓部】第46回全国高等学校総合文化祭 とうきょう総文2022 郷土芸能部門 出場

9月22日(木) 第76回 定期戦

史上最高記録タイ 7連覇達成!  
来年度は史上初の8連覇を!

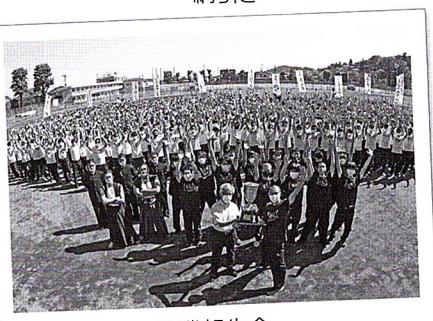
応援部顔合せ



綱引き



実行委員



優勝報告会

今年は一般対抗が厳しい戦況であり、7連覇できないのではないかと不安に思つた。しかし、高高が総合結果で勝利したと知ったときは、言葉にすることができないほどの喜びを感じた。日々の練習に取り組み、当日にベストを尽くしてくれた選手に感謝したい。

8連覇を達成するには並の気力や技術だけでは不可能だ。しかし、高崎高校はここで連覇を止めるような集団ではない。後輩たちには、セルリアンブルーの闘魂を真紅に染めて勝利を掴んでほしい。 実行委員長 3年 江坂 真乙

第76回定期戦得点表

部対抗		種目	一般対抗	
高高	前高		高高	前高
		駅伝	4.5	4.5
		綱引き	0	9
		玉入れ	3	6
		ソフトボール	9	0
		長縄跳び	0	6
0	6	卓球	5	4
6	0	陸上競技	3	6
6	0	ソフトテニス	3	6
6	0	バレー	4	3
6	0	バスケットボール	4	3
0	6	バドミントン		
0	6	剣道		
6	0	弓道		
6	0	サッカー		
6	0	ラグビー		
0	6	硬式野球		
3	3	軟式野球		
6	0	テニス		
51	27	小計	35.5	47.5

総合計 高高 86.5 前高 74.5

★これまでの戦績は高高45勝、前高24勝、引き分け3です

## 卒業生合格者数(全日制) ( )内は現役

大学	年次	4年	3年	令和2年	大学	年次	4年	3年	令和2年	大学	年次	4年	3年	令和2年
北海道大		8(5)	10(10)	8(6)	金沢大		5(4)	14(12)	13(11)	中央大		31(19)	66(54)	32(22)
東北大	22(22)	22(22)	22(19)		信州大	3(3)	7(3)	6(4)		明治大	76(61)	57(39)	54(44)	
筑波大	8(8)	4(3)	7(7)	名古屋大	3(2)	0(0)	3(3)		上智大	7(4)	8(6)	8(6)		
千葉大	8(7)	6(3)	6(6)	京都大	4(4)	6(3)	5(3)		立教大	21(14)	14(11)	16(15)		
群馬大	25(21)	34(31)	32(25)	高崎経済大	12(10)	13(12)	19(16)		青山学院大	13(11)	17(13)	4(4)		
埼玉大	4(4)	10(8)	6(5)	東京都立大(首都大)	2(2)	2(2)	3(3)		法政大	48(36)	35(24)	37(30)		
東京大	11(5)	3(3)	6(4)	国公立大 医学部医学科	7(5)	10(7)	9(8)		日本大	33(24)	58(49)	46(29)		
一橋大	2(2)	0(0)	1(0)						東京理科大	63(56)	50(39)	77(65)		
東京工業大	2(2)	3(3)	1(0)						芝浦工業大	59(45)	70(54)	71(57)		
東京外国语大	1(1)	3(3)	2(2)						明治学院大	7(6)	13(9)	4(3)		
横浜国立大	6(6)	9(8)	6(5)	慶應大	20(13)	14(8)	22(15)		同志社大	4(4)	9(2)	13(8)		
新潟大	19(17)	18(18)	20(16)	早稲田大	38(32)	31(24)	37(27)		立命館大	28(25)	36(26)	22(13)		

# 事業報告

## 「先輩、教えてください！」

在校生が県内の同窓生の皆様の職場にうかがい、職業に関する体験をさせていただく進路学習事業が、4年前より始まりました。この事業は、在校生が講義や見学・実習を体験することで進路意識を高め、彼らが将来社会貢献できる人材となることを促す企画です。今年度は、生徒たちが事前に作成した「ビジネスプラン」について、訪問当日に同窓生の方々からご指導いただくという新たな試みも行いました。受け入れて様々なご指導くださった同窓生の皆様に厚く御礼申し上げます。

今年度は7月6日(水)に実施され、当日は本校2年生約280名が41箇所の職場を訪問しました。今回受け入れてくださった6分野の同窓生の所感をご紹介します。



### 建設 株式会社根岸

「ご訪問ありがとうございました」  
専務取締役 **根岸 彰**(103期)

7月6日、高崎高校の現役生徒4名に当社をご訪問頂きました。

当社では、会社見学、ビジネスモデルの説明、課題の共有、そして、課題をさらに深掘りするために、建設業界が抱える「職人不足」という悩みに解決案を出すというケースワークを行って頂きました。4名とも、個性の違いを超えて、目的達成のために意見を出し合っている姿は、非常に素晴らしいものでした。生徒の皆様の未来が燐と輝くことを祈っています。ありがとうございました。

### 建設 株式会社塙本工務店

「私たちにも貴重な機会」  
代表取締役 **塙本 浩史**(99期)

今回は3名の生徒が当社に訪問くださいました。事前に建設業界の現状と課題を調査した内容を拝見ましたが、的確に分析されていたことに感心しました。また、自分たちが課題を見出し、その解決法をビジネスプランとして作成したものを拝見ましたが、よく要点がまとめられており、先生方のご指導もあったことと拝察いたします。これから社会を担う後輩たちを誇りに思うとともに、このような機会を提供ください感謝申し上げます。

### リサイクル 上越鋼業株式会社

「なぜ勉強しなければならないのか」  
を議論  
代表取締役 **波瀬 憲昭**(81期)

8名の理系の学生は皆が優秀で金属リサイクルに関する予習やデータの収集も充分でした。途中眠気が襲って来た頃合いで「高校生はなぜ勉強しなければいけないのか」と質問し議論に誘導したところ理系科目を念頭に感心する答えの連発。ステーキ宮での昼食では「遠慮せず何をどれだけ食べても良い」と言うと本当に値段も見ずに注文。若者らしい豪快な喰いつぶりで驚きました。真剣に対話し逞しく喰う姿に彼らの未来は安泰と確信した一日でした。

### 医療 清水歯科医院

「先輩、教えてください！」  
受け入れ後の所感  
医院長 **清水 英寿**(79期)

毎年、見学を希望した理由について学生から話を聞きます。学生から伝わってくるのは、教育を担う先生の熱意ですね。将来、社会に出て様々な経験を積むことで成長していきますが、今は受験をクリアするために勉学に集中する時間だと教えられます。

見学は、患者さん、スタッフのチームワークという雰囲気を感じてもらえたなら良いと考えています。医療を目指す学生さんは知的好奇心が旺盛なので、一様に真摯な態度で見学してもらえるため、毎年、張り合いを持って受け入れています。

### 法律 高橋浩生税理士事務所

「後輩との心地よい時間」  
税理士 **高橋 浩生**(78期)

同期の加藤 聰前校長が企画開始したこの事業、これまで日程が合わず現役生の受入ができませんでした。本年度は、私にとって待ちに待った日がやって來たわけです。当日は4人の後輩が体験に来てくれました。さすが我が後輩、事前学習とビジネスプランは良くできておりました。税の専門家である税理士の資格と業務内容を説明したうえで、事前学習をもとに過去、現在、未来について幅広くディスカッションを行いました。後輩との時間は誠に心地好き時で、この様な機会をいただき感謝しております。

### 教育 鼻高こども園

「未来のイクメン達」  
園長 **國峯 賢一**(74期)

9名の生徒が0歳から5歳までの6クラスに分かれ研修を行いました、毎回この体制で行っているので、少子化で兄弟の少ない生徒さんにとっては、初めて赤ちゃんを抱き、哺乳瓶を使う事等々、各クラスでも良い研修が出来たと思います。

事前学習では、保育の現状の分析は良く学習をしており、ビジネスプランも身の丈に合った視点から問題提起し、分析を行う高生らしい取組が出来て楽しく話が出来ました。

園児達も生き生きとして生徒たちに関わり、人対人、対人関係の一歩を踏み出しています。世界中で幼児保育・教育に投資することで大きい効果が得られる事で、多くの予算が投入されていますが、日本はまだまだです。高生が社会人になり、それぞれの立場で良い幼児保育・教育の実現に力を發揮してくれることを期待します。

## 令和4年 疎章・叙勲等受章者 (敬称略)

瑞宝双光章 渡辺 浩成(51期) 瑞宝双光章 小川 静夫(65期) 瑞宝双光章 黒澤 右京(69期)  
 瑞宝双光章 須藤 健二(52期) 瑞宝中綬章 厚井 達夫(69期) 瑞宝双光章 正田 弘一(69期)  
 旭日小綬章 真下 昇(56期) 瑞宝小綬章 吉野 勉(69期) 瑞宝中綬章 須野原 豊(70期)  
 瑞宝双光章 小池 琴彦(62期) 瑞宝双光章 木村 正志(69期)  
 文部科学大臣表彰 新井 啓(80期) 文部科学大臣表彰 阿久沢一広(79期) ※昨年度に受賞されました。

昨年度 山口 保男様(57期)は 瑞宝双光章 の誤りでした。



### ◆同窓会本部役員が総会にて承認されました。(任期2年、令和4~5年)

会長 坂本 正樹(71期)	副会長 高橋 浩生(78期)	副会長 德江 和彦(通信制教頭)
副会長 仙波 憲一(68期)	副会長 波瀬 憲昭(81期)	会計監査 松岡 光弘(77期)
副会長 清水 正郎(75期)	副会長 田中 幸雄(全日制教頭)	会計監査 小板橋 敬之(81期)



### 1.指月庭のバラを年間維持管理する『指月庭俱楽部員』を募集しております

母校120周年事業として指月庭は140本の新品種バラにて鮮やかに復活しました。現在、高崎成東会長以下10名にて活動、春~秋にかけて毎月第2・4日曜午前9時より手入れを行っています。時間の取れる方は道具持参にて参加して頂きたいと思います。詳しくは同窓会事務局 (TEL.027-320-6024) にお問い合わせください。指月庭のために役立てていただきたいと、高崎高校71期会(幹事長 佐々木祐一様)より10万円のご寄付をいただきました。



### 2.若い卒業期でまだ代表幹事、常任理事、理事等の役員未決定期に補助金

役員未決定、或いは同窓会未開催等で困っている期には、初回案内通知にかかる費用を同窓会にて支援致します。対象期の有志は事務局 (TEL.027-320-6024) にご連絡ください。



## ◆各地区同窓会 活動状況◆

### ◆東京同窓会

高崎高校東京同窓会 事務局長 大沢 貴頼(83期)

令和4年6月17日に椿山荘にて開催されました幹事会では、40名の会員が集まり、令和3年度会計報告とともに、下記の役員改選に関して承認されました。

8月5日の翠巒編集会議には、役員12名が集まりました。柴山新編集長のもと、翠巒68号の制作状況報告があり、原稿制作も順調に進み、総会にて配布する予定です。参加できない会員の皆様には、順次発送いたします。

9月9日の懇親会では、神楽坂に役員・会員13名が集まり、総会と今後の東京同窓会の展望などに関して語り合い、楽しい懇親会となりました。

また、9月15日に麻倉ゴルフ俱楽部にてゴルフ会を開催しました。今後は、参加人数を増やし、定期的に開催する予定です。

そして10月28日に明治記念館にて令和4年度総会・講演会及び懇

親会を3年ぶりに開催致しました。講演はテレビ朝日元アメリカ総局長の岡田 豊氏(82期)による「日本の衰退は止められるのか」です。

東京同窓会は、イベント盛り沢山の楽しい同窓会です。現在、会員を大募集中です。皆様からのご連絡をお待ちしています。



総勢100名での記念撮影

会長 山越 厚志(75期)	副会長 小池 純司(72期)
幹事長 下村 昇治(75期)	副幹事長 橋爪 恒二郎(77期)
事務局長 大沢 貴頼(83期)	監事 清水 保(74期)
監事 中村 健一(93期)	翠巒編集長 柴山 温行(73期)

### 会長 宮崎 和典(67期)

に高崎3校(高高、高商、高工)の新年会やゴルフコンペも続いている、コンペだけでも、全部、参加したら、年6回となります。最近はゴルフには前高卒業生も参加しておりますし、準会員として高女卒の方も入会してもらったり、会員の勧誘に努めています。最後に、関西に転勤などにより転居される方がおりましたら、是非、ご紹介お願いします。近々の予定は11月17日にゴルフコンペ、2月27日(予)高崎3校との合同新年会及び総会となっております。

連絡先:会長 宮崎 和典 090-4761-8013

幹事長 糸田 博史 090-1022-2857

各地区同窓会 活動状況 次頁へ続きます

### ◆関西翠巒会について

昨年の同窓会報、第55号で、当会の紹介をさせて頂いたのですが、今回も要請があり再度、紹介させて頂きます。当会も、発足して40年近くになりますが、当時の会員が残っておらず、残念ながら詳しい事が判りません。現在、約20人程で活動しています。総会は年1回、他に懇親会1回、ゴルフコンペを2回、定期的に行っておりますが、以前はお花見、ハイキング等も不定期に行っておりました。しかし、ここ数年のコロナ禍により、殆ど活動できず壊滅的とも言える状態に落ち入っています。特に高齢会員の参加が顕著に減っておりこれから回復するのは難しいかと思います。他に群馬県人会も活動しており、総会やハイキング各種スポーツ応援(高校野球)や文化行事の参加も行われています。他

## ◆各地区同窓会 活動状況

### ◆群馬県庁高朋会

群馬県庁高OB会「高朋会」は「会員相互の交誼を厚くし、兼ねて会員の教養を高め、もって地方行政の明朗闊達な遂行に寄与すること」を目的とし、発足して64年を数えます。

会員数は639人で、県議会議員5名、現役職員382名、OB252名と、数多くの高高OBで構成されています。(R3.12月現在)

現在、群馬県庁では、山本知事のもと、「始動人」(自分の頭で考え、動き出し、生き抜く力を持つ人)を新・群馬県総合計画のビジョンの

群馬県庁高朋会 会長 加藤 隆志(80期)

一つとして位置づけ、各施策を推進しており、高い志と豊かな人間性を兼ね備えた高高生こそ、まさに「始動人」として活躍できる人材だと考えます。

現役高高生の皆さん、高出身の大学生や社会人の皆さん、将来、群馬県庁で一緒に働き、「始動人」として、新たな群馬県の未来を共に創造していきましょう。

### ◆高崎市役所翠巒会について

高崎市役所翠巒会は、80期から117期まで245人の会員と顧問の富岡賢治高崎市長(64期)ほか6人の高崎市議会議員、合わせて252人で構成しています。

例年11月に総会と懇親会を開催し、顧問ご臨席の下、新人から中堅、ベテラン職員まで年齢に関わりなく親睦を深め、仕事の話やら趣味、政治、生き方の話など大いに盛り上がります。そして、宴の締めは全員が輪になって肩を組み、校歌と応援歌「翠巒」を歌い、最後は有志のリーダーにより母校や高崎市にエールを送るのが恒例となっています。

本会の活動は、決して活発とは言えませんが、総会、懇親会の開催のほか、毎年、「学校教育関係諸活動経費」として母校に20万円を寄附させていただいています。また、甲子園に出場した平成24年には、母

高崎市役所翠巒会 会長 曽根 光弘(81期)

校の活躍を祈念し「第84回選抜高校野球大会出場寄附金」として50万円を寄附いたしました。

市役所の仕事は、母校の教育目標の一つ「3F精神」ファイティングスピリット(闘志)・フェアプレー(公明正大)・フレンドシップ(友情)に通じるものがあります。

市民に寄り添い相手の立場に立って接することを心掛けるとともに、誰に対しても公平・公正であり、常に問題意識をもって改善・改革を継続することが市役所の仕事です。

そんな市役所で仕事をしてみたいというガツツのある高高卒業生を待っています。

### ◆榛麓翠巒会より

当会は昭和49年に有志の祝賀会が発端となり、平成元年「榛麓翠巒会」と会名を決め、以後会場を足門町の食亭「つかさ」にて、11月第2土曜日午後5時より開催しております。

懇親会に先立ち、講演会を行っております。昨年は66期武井敏男氏の「日本古代史に関する一断片」、令和2年は71期小板橋洋氏「飛行機はなぜ飛ぶか」、令和元年は62期鈴木越夫氏「ドキュメンタリー映画陸軍前橋飛行場」、平成29年は71期丸山徹氏「愛、深き淵より(星野富弘への敬愛)」といった興味深い講演をいただいております。

会報「榛麓の集い」は毎年発行し、会員情報、母校情報等を掲載し

連絡先 立見 友孝(63期) 090-1865-4383

会員の皆様に配布しております。ここ3年はコロナ禍により懇親会の開催は控えておりますが、会員皆様の寄稿を戴き、好評を得ております。現在会員数は100名弱となり、高齢化に伴い減少傾向にあります。この傾向を変えるべく、本年は91期の在住の同窓生に声を掛けさせていただきました。近隣にお住まいの方、どうぞ地域同窓会にご参加下さい。連絡をお待ちしております。



事務局 福島 直人(66期)



### ◆藤岡翠巒会

藤岡翠巒会は現在、市内外合わせて約130名の会員で、現在活動の中心は70期前後です。毎年「総会・講演会・懇親会」を6月に商工会議所で行っています。今年は3年ぶりに開催することができました。

今年の総会では、新会長に関根正史氏(69期)を選出し、群大名誉教授で鬼石病院地域連携医療センター長の倉林正彦氏(73期)に『心臓病の予防と治療』と題する講演を頂きました。高々時代の貴重な映像にびっくりし、大学・留学時代のテーマや群大での研究・教育と幅広いお話を楽しくお聴きました。

続く懇親会は少人数ながらとても楽しい会になりました。青春時代を

同じ学び舎で過ごした、しかもさまざまな世代間の懇談は何事にも代えがたいものがあると改めて感じた次第です。

会報も今年で5号を数えます。投稿者十数名、それぞれの経験に裏打ちされた読み応えのあるもので、同窓生の底力を感じます。皆様の入会をお待ちしています。会報残部ありますのでご連絡ください。



◆翠巒文庫について◆ 翠巒文庫は、著者または訳者が高崎高校の卒業生及び関係職員であり、本人またはその関係者から寄贈された図書で構成されています。

〈令和3年10月1日～令和4年9月30日〉

#### ●著書／作者

- 陸軍前橋(堤ヶ岡)飛行場と戦時下に生きた青少年の体験記 他4誌 ..... 鈴木 越夫(62期)
- Fukaya OpenGarden Book 他1誌 ..... 栗原 實(65期)
- 自考 ..... 岡田 豊(82期)
- 電気回路 実力・得点力アップ問題集 ..... 牛田 啓太(95期)

# 高高同窓会 予算決算報告

令和3年度 通常会計決算 (令和3年1月1日～令和3年12月31日)

(単位:円)

## 収入の部

費目	予算額	決算額	差引増減	備考
繰越金	328,316	328,316	0	前年度繰越金
入会金	2,852,000	2,931,400	79,400	全員制286名(@9,900) 通信制50名(@2,000)
維持会費	11,150,000	9,929,949	△1,220,051	2,777名(常任理事10,000、 理事5,000、一般2,000)
雑収入	249,684	197,018	△52,666	Webサブ協賛金・記念品収入・ 名簿収入・利息他
合計	14,580,000	13,386,683	△1,193,317	

(単位:円)

## 支出の部

費目	予算額	決算額	差引増減	備考
会議費	1,270,000	577,488	692,512	新年総会準備他
祝賀費	350,000	69,218	280,782	入学式・卒業式生花
餞別費	180,000	100,500	79,500	令和2年度末退職職員餞別
慶弔費	70,000	115,500	△45,500	供花
通信印刷費	370,000	310,572	59,428	維持会費・理事会通知・ 翠巒会館電話代他
旅費	200,000	0	200,000	
同窓会報費	4,380,000	4,314,367	65,633	同窓会報発行費及び発送費
事務費	1,500,000	1,737,829	△237,829	事務局職員人件費 (退職金積立60,000)・事務用品他
母校支援費	2,000,000	1,766,961	233,039	
①同窓会長賞	100,000	78,166	21,834	文鎮
②入学卒業記念品	1,000,000	957,820	42,180	ネクタイピン・卒業証書ホルダー・ トートバック
③諸活動補助	900,000	730,975	169,025	SSH・部活動補助等
資料整理費	100,000	90,200	9,800	Webサブ管理費・ 各会報のデジタル化費用
補助費	350,000	368,570	△18,570	翠巒体育会補助等
環境整備費	400,000	350,488	49,512	指月庭維持管理費
雑費	400,000	280,740	119,260	発送用データ出力
特別会計積立	3,000,000	3,000,000	0	特別会計積立
予備費	10,000	0	10,000	
合計	14,580,000	13,082,433	1,497,567	

$$\text{収入総額} - \text{支出総額} = \text{差引残額}$$

$$13,386,683\text{円} - 13,082,433\text{円} = 304,250\text{円} \text{ (次年度へ繰越し)}$$

## 特別会計

収入の部	前年度繰越金	8,060,841円
	令和3年通常会計から	3,000,000円
	雑収入(利息、新年総会準備金の返金)	900,567円
	合計	11,961,408円
支出の部	母校充実費(マイクロバス更新費用他)	4,000,000円
	記念誌増刷分	660,000円
	合計	4,660,000円

$$\text{収入総額} - \text{支出総額} = \text{差引残額}$$

$$11,961,408\text{円} - 4,660,000\text{円} = 7,301,408\text{円} \text{ (次年度へ繰越し)}$$

## 事務職員退職金積立

令和3年通常会計(事務費)から	60,000円
合計	60,000円
事務職員退職金積立(令和3年末)	360,000円

令和4年度 通常会計予算

(令和4年1月1日～令和4年12月31日)

(単位:円)

## 収入の部

費目	今年度予算	前年度予算	差引増減	備考
繰越金	304,250	328,316	△24,066	前年度繰越金
入会金	2,852,000	2,852,000	0	全員制280名(@9,900) 通信制40名(@2,000)
維持会費	8,000,000	11,150,000	△3,150,000	3,000名(常任理事10,000、 理事5,000、一般2,000)
雑収入	300,000	249,684	50,316	Webサブ協賛金・記念品収入・ 名簿収入・利息他
合計	11,456,250	14,580,000	△3,123,750	

(単位:円)

## 支出の部

費目	今年度予算	前年度予算	差引増減	備考
会議費	1,000,000	1,270,000	△270,000	新年総会準備他
祝賀費	350,000	350,000	0	叙勲・東京同窓会他
餞別費	180,000	180,000	0	令和3年度末退職職員餞別
慶弔費	120,000	70,000	50,000	供花
通信印刷費	370,000	370,000	0	維持会費・理事会通知・ 翠巒会館電話代他
旅費	250,000	200,000	50,000	東京同窓会・関西同窓会 出席者旅費
同窓会報費	4,380,000	4,380,000	0	同窓会報発行費および発送費
事務費	1,700,000	1,500,000	200,000	事務局職員人件費(退職金 積立60,000)・事務用品他
母校支援費	1,700,000	2,000,000	△300,000	
①同窓会長賞	100,000	100,000	0	文鎮
②入学卒業記念品	700,000	1,000,000	△300,000	ネクタイピン・卒業証書ホルダー
③諸活動補助	900,000	900,000	0	SSH・部活動補助・演奏会等生花
資料整理費	100,000	100,000	0	Webサブ管理費・ 各会報のデジタル化費用
補助費	350,000	350,000	0	翠巒体育会補助等
環境整備費	500,000	400,000	100,000	指月庭維持管理費
雑費	300,000	400,000	△100,000	維持会費等の振込手数料他
特別会計積立	100,000	3,000,000	△2,900,000	
予備費	56,250	10,000	46,250	
合計	11,456,250	14,580,000	△3,123,750	

## 特別会計

収入の部	前年度からの繰越金	7,301,408円
	令和4年度通常会計より	100,000円
	雑収入(利息)	92円
	合計	7,401,500円
支出の部	母校充実費	2,000,000円
	合計	2,000,000円

$$\text{収入総額} - \text{支出総額} = \text{差引残額}$$

$$7,401,500\text{円} - 2,000,000\text{円} = 5,401,500\text{円} \text{ (令和4年末)}$$

## 事務職員退職金積立

令和4年通常会計(事務費)から	60,000円
合計	60,000円
事務職員退職金積立(令和4年末)	420,000円



### 同窓会維持会費納入、翠巒育英会ご寄付のお願い

同封の振込取扱票により、コンビニエンスストア、郵便局にての納入をお願い致します。郵便局振込につきましては、令和4年1月17日より110円振込者負担の値上げもございます。出来るだけコンビニエンスストア振込にてお願い申し上げます。



群馬県立高崎高等学校  
同窓会報

【発行人】 坂本正樹(71期)

【編集委員】 田端 穣(54期) 吉永哲郎(54期)

波多野重雄(77期) 新井重雄(78期) 竹内 聰(79期)

花井好機(82期) 木村拓哉(100期) 菊地将史(107期)

### 編集 後記

同窓の皆様の多大なるご協力をいただき、会報第56号が発刊できました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。  
御多忙の中、貴重な原稿やお写真をお寄せくださいまして、誠にありがとうございました。(編集委員)

### 【編集委員からのお願い】

同窓会報1号(1967年)~6号(1972年)をお持ちの方がいらっしゃいましたら、同窓会事務局までご連絡ください。

群馬県立高崎高等学校 同窓会事務局

〒370-0861 群馬県高崎市八千代町2-4-1 TEL&FAX 027-320-6024 Eメール:suiran@email.plala.or.jp